

所属学科：地球圏システム科学科

氏名：大山 望

派遣期間：2016年3月14日～2016年3月29日

派遣先：タイ マハサラカーム大学

はじめに

このプログラムに参加を希望する際の理由は、もともと海外留学に興味があり、学部のうち1度は海外留学をしたいと考えていたことが一つである。また、昔から古生物学にも興味があり海外の古生物学研究はどうなっているのかという事を留学の際に実際に肌で感じ、学べたらなと思っていたことも理由の一つである。ほかの留学制度は決められた範囲の中で決めることが多い。しかし、この派遣プログラムは、自由度が高く、留学先を自分の希望に合わせて選ぶことが出来る。そこに大きな魅力を感じ参加を希望した。

留学先に選んだタイでは、恐竜や魚類、哺乳類、昆虫化石などの豊富な化石が多く発見されている。その中でもタイ北東部のMahasarakham大学（以後MSU）では、多くの化石資料を収蔵しており、様々な古生物学的研究を行っている。そこでこのMSUは自分にとって海外の古生物学研究の実体を知る良い環境にあると感じ、今回渡航先に選んだ。留学の目標は、これから山口大学で古生物学を研究していくうえでの基本的なノウハウや環境を先生方や生徒の方々にお世話になりながら、化石研究の場を実際の肌で感じ、今後の研究に役立つようにすること。また、生徒たちと共に過ごすことでタイの生活習慣や食文化を知るという事も目標とした。

スケジュール

3月14日：日本を出発しタイ（バンコク）到着、 その後MSUの先生の車でバンコクからマハサラカームへ
3月15日～17日：初日は大学案内、それ以降はMSUで古生物研究の基本的なノウハウ
18日：Sirindhorn 博物館へ
19日：今回この機会を作ってくださった、コラート博物館のMadさんと再会、大学で作業
20日：Sirindhorn 博物館へ
21日～22日 Kalasinという化石調査フィールドで恐竜化石発掘場へ
23日：Khonken大学の新しくできた博物館へ
24日～25日：大学で化石クリーニング作業
26日～27日：Kalasinでタイの子供たちとDino camp
28日：バンコクに滞在
29日：8:00に帰国

タイ（マハサラカーム）について

マハサラカーム大学は、タイの首都バンコクから車で約8時間かかる北東部に位置しているマハサラカームにある。マハサラカームの気候は、日本のような少しじめじめしており、渡航中雨はなく、平均35度を超える気温であった。留学をした時期がちょうど大学の卒業式のシーズンで大学周辺はタイの国王を表す黄色、女王を表す紫の色で彩られていた。大学周辺では、男子学生のほとんどが、モーターバイクで通学しており、女子学生は通学にバスを使っていた。また、あまり信号はない事も印象深かった。夜になると、卒業式のシーズンという事もあり、ホームパーティーやバー、カラオケなどで盛り上がっていた。食事に関しては、スパイスの効いた辛い食べ物が多かった。毎日おいしい料理を教えてもらったり、バス通学の方法を教えてもらったり、おかげでタイを堪能することが出来た。

(図1)



(図1：左から卒業シーズンの町の飾り、卒業生たちと集合写真、タイのバー、タイ料理)

大学での作業や博物館見学などについて

大学では主に古生物研究の基本的なノウハウを学んだ。主に恐竜化石のクリーニング、実態顕微鏡下での化石の写真撮影、などを行った。博物館見学については、マハサラカームから約1時間のシリントン博物館とコンケン博物館である。どちらも素晴らしい展示ばかりで楽しい時間を過ごすことが出来た。また、マハサラカーム大学で発掘調査を行っている恐竜発掘現場でも発掘調査を行った。そこでは、恐竜発掘はもちろん、化石を石膏で固めて大学まで運ぶという日本ではめったに味わえないような体験をさせていただいた。

(図2)



(図2：左からクリーニング途中の竜脚類の化石、シリントン博物館、化石を石膏で固める作業)

最後に

今回、私は2週間1人で過ごした。もちろん、2週間日常生活の中で日本語をしゃべる機会はなく、基本的に英語でコミュニケーションをとった。もちろん大変で逃げ出したくなったが、自分の将来の目標のための第一歩でもあり、こんなチャンスなかなかないと自分に言い聞かせながら過ごした。その中で英語を使いしっかりと聞き取り、相手に伝えられた時の喜びは大きく、少しずつ英語で冗談を言いながら生徒と一緒に食事をとることもできるようになり、積極的にコミュニケーションをとることが出来た。このような機会は、なかなか社会に出てからはできないと思う。海外出張で海外に行くことはあると思うが、1人で2週間という期間はできないと思う。このプログラムは、支援金をいただいて、自ら渡航先を選べるという大きなチャンスであると思う。そんなチャンスが理学部にあるからには、率先して挑戦するべきだと思う。もちろん、挑戦できる機会が出来たとしても、渡航前、渡航中、渡航後の準備はかなり大変である。そのために、まずその渡航先でのビジョンを持ってから挑戦すべきだと思う。もし、海外留学や研究の明確な「目標」があるのなら、様々な学生の方にこの派遣プログラムを通して貴重な体験をしてほしい。また、留学するのであれば、ぜひとも一人で挑戦してほしい。きっと今まで以上にものの見方や考え方、精神面においても成長するはずである。私は、今回のプログラムのおかげで、タイに新しい家族のような存在が出来た。(図3)



(図3：最後の集合写真)